



やるきほんききさき
木佐木
 神奈川議会議員
 日本共産党

2024.12.11
木佐木ただまさ news
 発行：党横浜北東地区委員会
 横浜市鶴見区潮田 3-147-6
 TEL：045-511-1021
 Profile
 ▶1984年山梨県出身
 ▶鶴見区馬場在住
 ▶神奈川大学法学部卒
 ▶よこはま健康友の会会長
 ▶横浜東民商顧問

「海に浮かぶ原子炉」の母港化撤回を！

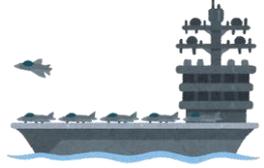
12月8日、横須賀市ヴェルニー公園で米海軍の原子力空母の母港化撤回を求める市民集会が開かれ、参加してきました。集会には共産党から山添拓参議院議員、はたの君枝元衆議院議員、あさか由香参院選挙区予定候補も参加しました。

もともとは3年だけのはずが…

そもそも1973年10月5日に初めて横須賀を母港とした米空母は、当初3年間だけという計画であると日本政府も明言していました。しかし、空母が代替わりしながら今年で51年が経過しています。さらに2008年からは放射能事故の危険をはらむ原子力空母が配備されるようになっていきます。

年の内、半分近く横須賀に原子力空母が入港しているにもかかわらず、原発立地自治体に求められる放射能事故の避難計画が神奈川県にはまともなものがありません。元日に起きた能登半島地震でも志賀原発の状況が心配されましたが、横浜や三浦半島一体も同様の状況が生まれえます。

またこの間、横須賀では米兵や軍属による様々な事件も起き、地元住民が被害を被ってきました。つい最近もバイクと車の事故で、バイクに乗っていた市内在住の青年が死亡する事案が発生しましたが、捜査はされたものの身柄を拘束されていないなどの報道もされており、日米地位協定によって公務中の米兵犯罪は日本に第一次裁判権がなく適正な対応が難しいと思われる場面が少なくありません。



空母母港化撤回まで諦めない

神奈川県には、この横須賀以外にも厚木や座間、相模原、横浜など各地に米軍の重要な拠点があり、沖繩に次ぐ「第二の基地県」と言われています。

今年に入って、米軍ヘリが海老名や茅ヶ崎に不時着する事故も相次いで起き、騒音被害は相変わらずひどい状況です。

この集会で山添拓議員が国会報告を行い、日米軍事一体化・強化は「相手国に軍備拡張の口実を与えるだけであり、緊張を高める。緊張緩和こそ政治の役割だ」と指摘し、「原子力空母の配備をやめさせる日まで、皆さんと一緒に声を上げる」と表明しました。

神奈川県議団としても、これまで何度も米軍基地からのPFAS流出や暴行事件など基地あるが故の被害をなくすためには、地元自治体が基地返還の声を強く上げていくことを知事に求めてきました。

平和のカギは、殴り合いに強くなることではなく、互いの言い分を受け止めながら双方の合意を広げていく対話以外にありません。引き続き、戦争の準備ではなく平和の支度をと声を上げ続けます。山添拓議員の訴えはこちらから→

